

H幼稚園の遊び保育への転換を
園長・保育者・研究者の3視点からとらえる
—遊びのとらえ方と環境構成の変化—

目白大学 松永愛子

H幼稚園 園長

H幼稚園 D先生

1. 研究目的(1)

教師主導型の保育方法を採っていた園が、遊びを中心とした保育方法へ転換する過程を事例研究によってとらえる。

障壁は何か？

障壁の乗り越え方は？

遊びを中心とした保育への転換を目指す他園の参考になることを目指す

1. 研究目的(2)

劇行事への取り組み方における「園体制」「保育者の意識」「環境構成」変化を探る

	園の体制	保育者の意識	環境構成の重点 (行事への取り組み)	劇行事前後の 子どもの姿
以前	教師主導で行われる生活。行事前は登園を嫌がる子どももいた。			
2018	クラスを見合う	?	?	けん玉・縄跳び検定 【個人の技術や数を競う遊び】 お店屋さん、アイドル、ラジコン製作等 【見る一見られる遊び、作る遊び】
2019	週案作成	?	?	
2020	話し合いの時間	?	?	

行事と生活の関連が見えにくい2018年→行事と生活の繋がりが見えるような2020年になった理由を明らかにする

2. 研究方法 エスノメソドロジーの特徴

一つの研究フィールドにおいて長期間参与観察をし、「エスノグラフィ」と呼ばれる報告書をまとめる方法。

仮説検証型
研究

あらかじめ仮説をもってフィールドワークを行い、仮説を検証する方法。

【本研究】
仮説生成型
研究

できるだけ先入観を持たずにフィールドに参入し、データ収集と仮説生成を繰り返すことで、仮説の精度を高める方法。
(箕浦,1999)

研究者自身が想定しない創造的結果を得る可能性がある研究方法といわれている

3. 研究対象とデータ

2018年～2020年、10月～3月、5歳児担任の保育記録を中心に分析

1. 2月の劇の行事

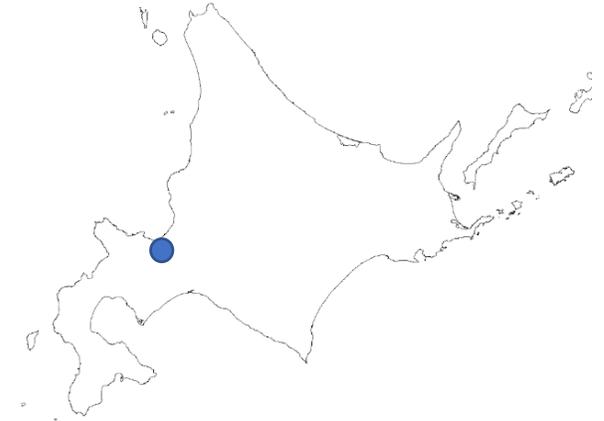
10月	11月	12月	1月	2月	3月
	2018 秋のコンサート	2018	クリスマス会	冬休み	2018 生活発表会
	2019 音楽祭	2019			2019 準備→緊急事態宣言→本番
	2020	2020			2020 演劇祭

2. 5歳児クラス (1学年3クラス有)

担任3名	2018	5歳担任：A先生	
	2019	5歳担任：B先生	※2018年時、A先生クラスの副担任
	2020	5歳担任：C先生	※2019年時、B先生クラスと共有クラスの4歳担任

4. 園長の視点から(1)

H幼稚園 (札幌市 手稲区)歴史



	約40年間	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
出来事			新主任	園庭改築	新園長		子ども園化 新園舎
保育内容	教師主導	1クラスのみ遊び中心		全クラス遊び中心			45歳 合同保育に
筆者の関わり					出会い	観察	観察と研修

「H幼稚園」は、札幌市の西側に位置し、海・川・山が近くにある自然豊かな環境にある。1978年創立以来約40年間、教師主導の保育を行ってきたが、2017年新園長就任をきっかけに本格的に「遊び保育」への転換を目指した。







4. 園長の視点から(2)

2017年以降の園改革

園庭改造

行事の変革

ICT化

支援児の受け入れ

他園訪問

他園からの主任抜擢

研究者受け入れ

園内研修

外部研究会参加

残業・休日改善

園長主導で行われた園改革の詳細は、別資料へ・・・

保育者の保育目標・保育方法の変化の背景には、園長のリーダーシップで起こった多くの変化があった。

2015年





2019年



2020年

5. 結果(1)

2018年 劇の行事をめぐる変化

(1) 園の体制の変化

クラス同士練習風景を見合う機会を作った

(2) 保育者の意識の変化

話し合っってよい、課題を共有してよいという空気へ

(3) 環境構成の重点 (行事の取り組み方)

子どもだけで話し合う。子どもが参加するか決める。
子どもが題材を決める (記述数15回/保育日数82)

子どもが決めても、どうしても子どもだけではできない…。先生の理想と違い、練習させてしまう悩み

(4) 行事前後の遊び

けん玉、縄跳び検定も、子どもが決めた遊びとして
保育者に注目されていた (記述17回/保育日数82)

「遊び＝子どもが決めること」と意識して環境構成していた

5. 結果(2)

2019年 3学期の劇の行事をめぐる変化

(1) 園の体制の変化

週案（記録、ねらい、反省）を書き始める

(2) 保育者の意識の変化

遊びを行事につなげる意識。特に**潜在的経験**（※）。

(3) 環境構成の重点 （行事の取り組み方）

子どもがしたい遊びが持続する環境

遊びが持続・発展しにくい悩み。（**記述数8回/保育日数82**）

(4) 行事前後の遊び

ロボット製作 → (……) → ロボットの劇

「遊び＝子どもの好きなモチーフや内容の持続・展開」と意識して環境構成

「遊びの中の潜在的・顕在的経験」

(河邊、2005)

潜在的	他の遊びとも共通している経験	非認知	人間関係・思考・判断・表現等
顕在的	この遊びだからこそ経験できること	認知	技能・知識等

3歳	潜	自身の気持ちを表せるようになる
	顕	自然物から音への興味をもつ／身近な楽器でならしてみたい／だなどという気持ちを持つ／他クラスの音や楽器に興味。
5歳	潜	クラス同士、クラス内の小グループ同士よきライバルとなり、負けられない！という強い刺激となる／一人一人の個性、小グループの個性を表すことができる／イメージを共有して目的をもって発表に取り組む／メインとサブで子どもたちが違う面を表すことができる／保育者の設定するテーマのもと小グループで自主的に活動できる
	顕	

発表要旨より抜粋
2019年「保育者がとらえた音楽祭を通しての子どもの育ち」

5. 結果(3)

2020年 3学期の劇の行事をめぐる変化

(1) 園の体制の変化

週、月、学期ごとの振り返りの話し合いを始めた

(2) 保育者の意識の変化

子どもの「**顕在的・潜在的経験**」を読み取る。

(3) 環境構成の重点 (行事の取り組み方)

子どもの遊びの試行錯誤が起こるように教師からも発信する環境構成 (**記述数23回/保育数83日**)

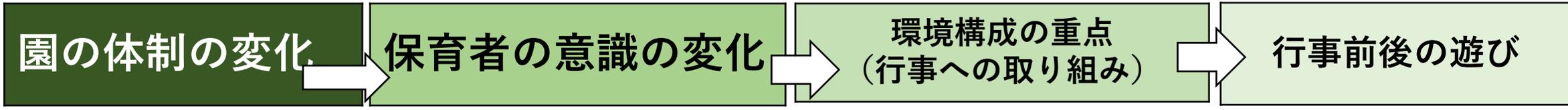
行事と行事の間で子ども発の遊びが盛り上がるため、行事の準備が遅れてしまう悩み。

(4) 行事前後の遊び

「みるーみられる」遊び、作る遊びの盛り上がり

「遊び＝保育者の子ども理解をもとにした環境構成のなかで起きる子どもの反応」と意識して環境構成していた

6. 考察



以前	教師主導で行われる生活。行事前は登園を嫌がる子どももいた。			
2018	クラスを見合う	課題・アイデアの共有	子どもが決める環境	けん玉・縄跳び検定 【個人の技術や数を競う遊び】
2019	週案でねらいを立てる	潜在的経験への注視	子ども発信の遊びのモチーフを維持・展開する環境	お店屋さん、アイドル、ラジコン製作等 【見る—見られる遊び、作る遊び】
2020	話し合いの時間	潜在的・顕在的経験への注視	子どもの遊びの試行錯誤が起こるように教師からも発信する環境構成	

2020年は、子ども発信に加え、保育者発信も増え、相互作用の中で、遊びがさらに豊かになっている。

6. 考察（2）

2018年～2020年の「保育者の遊びのとらえ方」「環境構成」は、**保育者個人の力量の問題ではなく、園の体制の変化と連動して変化**してきた。一足飛びに叶うものではなく、園の体制の変化に伴う、保育者の悩みや葛藤を経ることで叶うものなのではないかと思われる。

今でも、保育者の間で、「どこまで保育者がする？どこまで子どもができる？」という疑問はつきないが、内実には変化がみられる。

環境構成が変化することだけでなく、**保育者が「遊び」/「主体性」という言葉をどういう意味で使っているのか、その変化を丁寧にみていく**ことが、遊び保育への転換過程における保育者や子どもの育ちを支えていくことになるのではないか。

7. まとめー研究者の仮説を更新する可能性としてー

保育者（D先生）視点から

1. 保育者の**キャリアの影響**

「教師主導型を経験してきた保育者が遊び中心の保育を目指す場合」と、「遊び中心の保育からスタートしている保育者」では、行事の取り組みにおいて「こだわりたいところ」「余裕を持つところ」が少しずつ異なる。

2. 劇の**教材研究の影響**

保育者の行事への取り組み方は変化してきたが、4歳のねらいが高いのではという声も聞かれ、教材研究はこれから。子ども（役者）の好きな物語をどのように劇化するのかという「演出家」の仕事は、保育者が担うべき部分大きい。教材研究によって、4歳の育ち、5歳の育ちにあった劇が考えられ、子どもの遊びをよりいかせるのではないか。

7. まとめ—研究者の仮説を更新する可能性として—

園長視点から

1. 時を経て**よいものは残る**、という園長の信念が保育者に与える影響

縄跳び、けん玉等は、目指す保育をしている園をまねして2014年から取り入れていったもの。「本当に子どもが必要とするものは時を経て残る」という考えから、他園のいろいろな取り組みをまねしてとりいれてきた。

2. **常に新しいことを取り入れる園長の姿勢**が保育者に与える影響

園長がICT化、園の体制等、常に新しいことに挑戦することで、保育者は失敗もすることがあるが、新しい挑戦が常にあり、子どもと一緒に成長できるのではないか。

資料1 星の子幼稚園のクラス・園字・保育者数

	クラス数	各クラスの子 ども数	各クラスの 2号認定数	各クラスの保 育者数
0歳	1クラス	約5名		3名+フリー
1歳	1クラス	約15名		
2歳	1クラス	約15名		3名+フリー
3歳	3クラス	約25名	約7名	2名+フリー
4歳	3クラス	約30名	約7名	2名+フリー
5歳	3クラス	約30名	約7名	2名+フリー

- 01歳 45歳 合同クラス
- 2号認定(各クラス約7名、全体で約60名) 午睡あり(3歳のみ)
- 園バス4台、8コース、2時間搭乗 (アルバイトが対応)

資料2 週案様式 (10日案)

歳児 組	月 日～ 月 日	月のねらい			
担任 () 担任 ()		2週のねらい			
<small>【アイデア・メモ】</small> 目的には決まっていなくても、こうしてみたい、というメモを書く。 <small>【環境構成のアイデアを記入する】</small> タイトルや時期が決まったら、下欄に書く。付箋は、 <small>【タスク・決定事項】</small> 決定事項、付箋で記入しておいて、後で書き入れてもよい。					
幼児の取り組みと援助の反省					
子どもの姿と援助の振り返り	アイデア・メモ				
	タスク・決定事項	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)
					日(金)
子どもの姿と援助の振り返り	タスク・決定事項	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)
	アイデア・メモ				
幼児の取り組みと援助の反省					
上週の内容欄	残った課題	新たな願い			
2週のねらいと 照らし合わせて				2週のねらいにつなげよう	

月のねらい
週(10日)のねらい

幼児の姿と援助反省

環境構成のアイデア

タスク・決定事項

残った課題と
新たな願い

引用文献

河邊貴子,「遊びを中心とした保育ー保育記録から読み解く援助と展開ー」(2005)
萌文書林,57-61pp.

箕浦康子,「フィールドワークの技法と実際」(1999) ミネルヴァ書房.

研究者のHPに、園長による改革内容年表を掲載予定。